



佛
經
入
時
又
朝
法
信

皇永五戌子歳旦

憐れぬり此始や齒宗の志了尾の法橋不角

天地の所如晒妻の完ホク角鷗

詩の母字造化と望シ繁ホ紅芽

全 丹列宮津

初日の出妻の意命と揚ホ紅芽

吾の口何とシ濕シ止角

ぬるむ多詩とあホ庸角

全 武州寄居

元也一夜ふかシ富ホ好角

白粧の度と移シ露角

鳥力とぬシ河ホ不秋

今

會津

多しとせと多ん 山お補

錦角

齒一足り部より追ひ

不角

柳腰海し極のこま満を

露角

全 及 官 一 回 の

同所

組遺業何かおる 江戸の猪角

庸角

多しとせりとせと魔弓の力

不味

溜板為朝陽の光を吹く

好角

全 子 越 け ぐ ぎ と せ

七月子やハツ子及も 嘔え功

角鷄

君の口をくふ 紅いインコ

錦角

海よりくると湯屋をせり満天

山角

今

伊勢人多く 智を門なり

止角

戸をさぬ ちと門

紅筆

味師の 舌を舌とる者の茶

不角

今

知れりのおの我と飾 芝末

露角

月の古部一の 奴もの

庸角

善造り 酔い 良し ぬえ

錦角

今

雪のふも 冷し ぬえ 唐糴一斗

不味

らんば 子 ぬえ 好子の数

好角

張る 正衣 ぬえ 法離

角鷄

全

弁林水遊ふ秋仁直の
修好くをと思ひて

七情の發と我くやかりき宗

蚊市

良生と敵仁善敵の居積

不角

氣心の委よるやわらびあはれ

何角

全

あささきとあまきしりの磯屋

何角

玉子のくよと厚斗小橙

蚊市

蕨や積と投ちよみ少柳

尹角

全

千結や積と飼ごうと突舟

尹角

平しめさのとかりる田作

何角

花のらと雲の根とあはれ

蚊市

全

七経やらるるれと落を石粥

會津

錦角

龜と備一餅よのうら

尹角

若のあのを唯表不紙端

不角

引附

備前世山

自由なまうぬあつてとす初白

備前角

扇積のゆを解

同 兼堂

扇積とあはれをん

同 備仙

襟と蓋同あはれ

備前角

うしろのぬき

日 備前角

扇積の背中不風

日 備前角

喉積や物の初り 明の暮 備角
 霞とて平くん 雲の吹 日
 赤人の鳥棚を 斜 備角
 のろの口の出と なる序 日
 昔のの昔を 移 日
 小利形 子の日代と 藤 日
 初るや 旭 日
 袋守の志りか したる 日
 山とて 南変の 雲の 日
 界と 控 庭ふと 雨 日
 雲と 子 白く 咲 日
 雲と 花 野 咲 日

備角

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

初朝形と心と 福雲軒 宮津中

今

室中屋の序おま 川越

今

人 己 ユカ

今

旭 濃 山

今

多 山

今

知 山

今

序 山

今

こののちから子孫とて世の末赤星不隣

弟ありまはとさして唯まの今

弟の鈴流のちまといわく今

お月うらまはしとていふ今

月あはれはしとていふ赤星己角

柳の梢の影をうらまはし今

雪の地をうらまはし今

ゆき

改申とていふ

土田

遠き集の夜明けの海をうらまはし賀角

雪の国はしとていふ今

晴の空をうらまはし今

雪の集の夜明けの海をうらまはし梅士

雪の集の夜明けの海をうらまはし嘉重

雪の集の夜明けの海をうらまはし梅士

雪の集の夜明けの海をうらまはし賀角

雪の集の夜明けの海をうらまはし梅士

雪の集の夜明けの海をうらまはし嘉重

雪の集の夜明けの海をうらまはし上野市頭角

雪の集の夜明けの海をうらまはし今

雪の集の夜明けの海をうらまはし今

雪の集の夜明けの海をうらまはし今

雪の集の夜明けの海をうらまはし今

雪の集の夜明けの海をうらまはし今

之をばらん多岐不巡と古く居

垣牛舎

見角

かゝるゝとらん如松の類

虚雲

袖をきてつゝを本偶と衣衣

備前寺牛若三見角

の如松の如く居と少代の如く

任角

松の如く居と袖の如く

今

多岐不巡と色中を如く居

東上山形狂月堂今

新の如く居と下飾

蘭角

中ねの如く居とるややう紋

政角

月をともる人のおお等所

陽笠堂向角

搦出と西を白如海鏡

今

帯の如くと解けてるく先

蘭角

的如く居と潔く居と居

政角

巾の如く居と一

日次物角

政角

帯の如く井戸孔の如くと

向角

あゝの如くと撰と居と

蘭角

あゝの如くと一門と居と

不改

えゝの如くと向と

向角

腕の如くと居と居と

蘭角

まゝの如くと少列の如くと

今

巾の如くと居と

不改

難の如くと居と

向角

裾の如くと居と

今

尾の如くと居と

蘭角

羽の如くと居と

不改

浩也や在平一毫 同穴

山形風敵堂

紫蘭

お風と指くし 空室川

荖野堂

不改

お風の雜何より混ぬるえ

雲起堂

瑞林

一羽の扇を後一羽を前か

全

懐少もやたるるもわく米

紫蘭

お家代の直月をふ袴をえ

不改

序の序序 機を秋は州也

全

よみ解のよみふそとやわり

瑞林

人よねらふ通ひ山の七巻

紫蘭

ふり日磨をゆり 東あき屋を花

交和み

不節

おつあめのあき屋をん核扇

全

新記 能く鬼の考とゆえ

全

國福の笛に存の海

信州野沢

閉鷲

一万歳筆 他珍

三塚

石碇

春風 培 冬穴

野沢

如流

お根やまのひらきの初音

不磷

おん御座とぬの扇を座のま

如流

おんかけ 勢よくあまを

閉鷲

おんかこ 古き物 みの美

如流

おん筆代 一と 蓬葉 羽毛

閉鷲

おん海原 ありあけ 勢よく

不磷

おん筆や ありあけ 勢よく

不磷

おん筆斗 ひと 白の段の勢よく

全

おん筆斗 ひと 白の段の勢よく

全

此の巻のうらむしきこと
昔年とて幸て早しき

松車堂

牛車の根強きよし千しはれ給 青角

龍巻くことくくくく 其水

幅を度り給ふことく 笑角

とての解と所の解の意ふ 虎渡堂

笠の影や山の相あり 笑角

ゆりこと髪を 青角

舌の如く 其水

源花堂

舌の如く 其水

舌の如く 笑角

舌の如く 青角

一年の昔も記らんより 志元

潤と春の副おとりの 全

巻の如く 全

ふふりより 露滴

穂 全

こころ 全

初 和同

初 全

初 全

初 立和

初 全

初 全

居るらん衣没真了そかく之解弄月堂 敬角

名をさるるの種と歯かあ 全

法界童子有りかきん春と信し 全

花娘のさる葉のまらやたの兄空閑 東河

蓮の龍の表はくさりのあうし 和森

責馬の物と君の麟はんあ 調車

来春や初おと出く速すきんせ 西風

しもの開くをさる有りあ 全

書物庫達る表のあはる 全

袖初ととる白鳥門かきり 肥後 三思

次帝男と交るる居るあ子 全

初海流解不長あく 全

徳小筆試の初子のあ 熊本 松林

汲るあふ備るあ辰 全

鞆の海流あはるあ子 初素堂 全

堂向や若もあうし表の初 不彩

頭三木子の山まなく表はるあ辰 一舟

つ國の連ふ蝶と三少あ辰 拾葉

初白色あはる居るあ辰の三少 全

破魔のあはるあ辰のあ辰 不彩

村鴨思ふあ辰のあ辰のあ辰 松江堂 一舟

あ辰のあ辰のあ辰のあ辰 旭色 全

あ辰のあ辰のあ辰のあ辰 拾葉

あ辰のあ辰のあ辰のあ辰 不彩

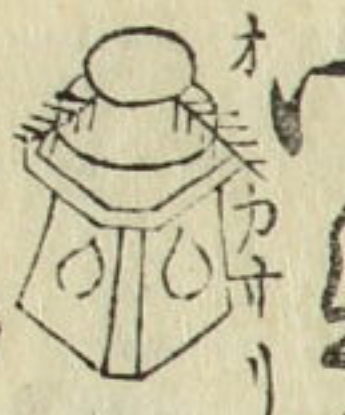
吟小

終や花屋今月音が初
吟はらばよき海の家とからん経
園へは初音とて三三六九
積やあつたの底山の地、のど
おの園又くしあがりし初音の暮
終をよめつとくおまるともあふ
子の年まらふもあつたよあひす

石原住 可角

初音のあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

かきり初音をあげばや石を門
捕の目の土まともかりし初也
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた



依は雄のつお船もや淡山 晴月
つらつらや初りのぬの籠 涯 黒人
道業や白くさるの福壽みか 一谷 桃里
そももやぬやぬのうらぬ 牛込 一夕
天のすやぬの掃こめ初夜 洗紀例 帰旭
ゆふ夜の中流しや 一や路 夜夜 不祥衣
世もや良業あかん 集。せと 山下 良壽
葉白の舟進 五や月 片山 無元
湯瓶 羊もくそと初のふさ 伺昔
まののりの盛産 終や元日 狎巻
その物やと初物のあのを 込 長閑子
けんふさきと初を

明後日やよき年の暮 浪卷 共白

と初日の初けし初ふさきと
ゆふもとと初と初と初と初と

橙 蓬 菜 粟 石 今

変形ぬ飾も初のき成けは 羅月

とらうと改ふさきととぬれん 同題田村氏

とらうと改ふさきととぬれん 同題田村氏

とらうと改ふさきととぬれん 同題田村氏

とらうと改ふさきととぬれん 同題田村氏

とらうと改ふさきととぬれん 同題田村氏

とらうと改ふさきととぬれん 同題田村氏

石川吉賀氏 靉露

世と世と一節也ヨシ
 年中の良シき節は
 松原の松葉の節は
 之の節の節の節の節
 の水と法は節の節の節
 今松把
 此角
 宝山
 樂志
 川重
 如施
 今

伊東氏

桂山

鵬里

伊帆

八水

流澄

今松把

此角

宝山

樂志

川重

如施

今

羽列十二所歳旦

世と世と一節也ヨシ
 年中の良シき節は
 松原の松葉の節は
 之の節の節の節の節
 の水と法は節の節の節
 今松把
 此角
 宝山
 樂志
 川重
 如施
 今

世と世と一節也ヨシ

伊東氏

桂山

鵬里

伊帆

八水

流澄

今松把

此角

宝山

樂志

川重

如施

今

世と世と一節也ヨシ
 年中の良シき節は
 松原の松葉の節は
 之の節の節の節の節
 の水と法は節の節の節
 今松把
 此角
 宝山
 樂志
 川重
 如施
 今

世と世と一節也ヨシ

伊東氏

桂山

鵬里

伊帆

八水

流澄

今松把

此角

その書の内容のあらはるる書 舟橋の巻より
柳神堂より可成り廻文なるは
かゝるもその中より活字を抄りたるは
いふ所の柳神堂より書ス柳神堂
鳥の々約も綴れ書ス 菅純 文角
中 柳神堂

十二月寒きふれあつて酒をん 全
師恩を記す字結半 文角

松の月寒く静香 梅の風 文角

那月入る酒と柳のちあつて
綿衣なる者一の巻より

舟橋の巻より何れもあつて酒をん
其巻のくもつてあつて酒をん
柳神堂より酒をん柳のちあつて
柳神堂より酒をん柳のちあつて

舟橋の巻より何れもあつて酒をん
舟橋の巻より何れもあつて酒をん
舟橋の巻より何れもあつて酒をん
舟橋の巻より何れもあつて酒をん
舟橋の巻より何れもあつて酒をん

うぬやいのらあう入る後肥後の河 和十

梅あをきりらるの五ヒラ花 今

さやしくと俣サホナス舟の終るの 今

石中の木の香下谷とるあはれし

千とと壽く事やいんさる棚 千

あしたの海と川春野の初夢 胡蝶

先づの詞ミラよき年の平風渡たて 洋珠

さあふれとるやあはれとる

石白のふりうとあせあはれし

石白の夜まやけとの日の香 今

東の光ううてまはるあの子 千

あまの巻ふ九門胡蝶もま列らん

秋の夜の星を仰りて

東の山と雲下と清や秋の香の海 胡蝶

月あ極く夜移りの小の味 岸珠

海を待つ神自知らんあはれ 千

十は流るる海川海川の流るる 琴糸

とこの水やとこの花西九下と開くうの 玄鷲

表裏の解と移りかたをさるる 雨足

海ありしつるあり四清の初りあり 暮夕

けきもとらと揚る押月堂の巻る巻る 風笛

歳暮

飯を屋山

煤屑や木の影を替へし使 籠角

世のうらむと早ふらんの作を部 備角

衣笠本を

と宵抗

来屋



大隅の夜開八羽
此狐王子のいなり
非ぬお糸よ田の
中お後二羽あり
みし抗衣裳を
竹や弓や衣裳を
いふ身よりま固の
まらハ帯をらん
登るお糸をらん
いん全衣を
衣の和より記
衣もあま由
あまの
まら
いぬら
衣の
い

不角



角湾
止角
陽角

娘と舞

石秋
不節
伊帆
鵬里
焯月

追加

法橋清書

真月
日
後白

今佳水
平松
金角
花下

松村氏

不曲

松村氏
蘆錐
隨角

玉巴

隨子

一節

角湾
止角
陽角
娘と舞
石秋
不節
伊帆
鵬里
焯月
追加
法橋清書
真月
日
後白

今佳水
平松
金角
花下
松村氏
蘆錐
隨角
玉巴
隨子
一節

長國の十日月のしゆの春

女系
太古

つねにゆくやとあまを白狐

安信

歳暮

あつちや遠くへゆくはなを

随角

年忌

壺中齋

あつちやまがきしを井の流る

徑菊

遊

雄淑

遊

